

# 令和元年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和2年3月17日

都築教育学園

第一幼児教育短期大学附属

鹿児島第一幼稚園

## 1. 本園の教育目標

幼児の主体的な活動としての遊びの重要性を念頭に置きながら、一人ひとりの個性や良い特性を伸ばすことを心がけるとともに、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られるよう環境を工夫し、友達と十分にかかわって遊びや活動に取り組めるように配慮するなど、幼児期にふさわしい生活が展開されるような幼児教育を目指している。

## 2. 本年度重点的に取り組んだ目標・計画

改定された幼稚園教育要領の中で示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について、教職員の共通理解を図り、教育の質を高めるとともに、保護者をはじめとした地域社会に対して幼児教育の重要性を発信していく。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	保育の計画性	A	園の教育課程に基づき計画を立て、実践している。行事の後には必ず反省会を実施し、見直しに努めている。
2	保育の在り方、幼児への対応	A	一人ひとりの幼児をよく観察し、理解するように心がけている。
3	保育者としての資質や能力・良識・適正	A	より良い環境の構成および保育活動を行うために努力しており、それが個々の資質向上につながっている。
4	保護者への対応	A	いろいろな方法を用いて子どもの様子をこまめに伝え、連携を図るように努めている。
5	地域の自然や社会とのかかわり	B	就学する小学校が複数に渡るため、就学時健診や小学校との連絡会等以外での関わりが少ない。高齢者施設や高校とは関わる機会を持っている。
6	研修と研究	B	鹿児島県教育委員会、鹿児島県私立幼稚園協会、始良伊佐地区私立幼稚園協会主催の研修にはほぼ参加している。園内研修は年1~2回実施している。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

#### 4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	環境を通して行う幼稚園教育のあり方を理解し、一人ひとりの子ども達やその家庭に対し、丁寧な関わりを持つように努めた。その取り組みについて、保護者アンケートの中で高く評価された。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

#### 5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	安全管理 (令和2年度)	幼稚園は「要配慮者利用施設」に指定されることから、大雨洪水・台風・土砂災害・地震・火災・新型ウィルス等による感染など不測の事態に備え、「危機管理マニュアル」の見直しや災害別の避難計画の作成および教職員の意識づけに取り組みたい。
2	地域との交流 (令和2年度)	地域の小中学校とのふれあいの機会を持てるように働きかけ、少しずつ本園の子ども達と生徒の交流を図れるようにしたい。また、園外保育で、地域の特性に触れる経験が得られるように工夫していきたい。
3	自然とのかかわり (令和3年度)	身近な動植物とのふれあいの機会を持てるように、環境を整えていきたい。
4	資質向上の取り組み (令和3年度)	研修の時間の確保が最大の課題である。落ち着いて会議や研修に取り組みめるような環境づくりを工夫していきたい。

#### 6. 学校関係者評価委員会の評価

開催日	令和2年3月11日(水)
評価内容	<p>自己評価の結果と保護者アンケートの結果をもとに、今後の本園の取り組みについて以下のように提言をいただいた。</p> <p>地域とのかかわりを深めるには、地域の人に園に足を運んでもらえるような具体的な「しかけ」が必要なのではないか。</p> <p>また、地域連携を積極的に行っている他園の事例に学ぶのも一つの方法であると思う。</p> <p>保護者や地域の方に園の教育を理解してもらうために、今後は SNS 等をうまく活用して発信することも検討してもよいのではないか。</p>